

勢多だより

SETA DAYORI

No. 107
2017年6月



平成29年度 入学宣誓式
新任教員紹介

平成29年度 新入生宿泊研修
第42回 浜松医科大学との交流会
平成28年度 卒業式

平成29年度 新入生歓迎



滋賀医科大学
SHIGA UNIVERSITY OF MEDICAL SCIENCE

CONTENTS

【メインテーマ】「平成29年度新入生歓迎」

トピックス

- 01 平成29年度 入学宣誓式

新任教員紹介

- | | | |
|-------------------------|-----|-------|
| 05 小児科学講座 | 教授 | 丸尾良浩 |
| 06 臨床看護学講座(精神) | 教授 | 河村奈美子 |
| 07 眼科学講座 | 准教授 | 西信良嗣 |
| 08 地域医療教育研究拠点(JCHO滋賀病院) | 准教授 | 内藤弘之 |
| 09 臨床看護学講座(老年) | 准教授 | 荻田美穂子 |

キャンパスライフ

- 10 平成29年度 新入生宿泊研修
13 第42回 浜松医科大学との交流会
15 第40回 解剖体納骨慰霊法要・納骨式

図書館からのお知らせ

- 16 本学教職員が薦めるこの本2017

JCHO 滋賀病院だより

- 20 JCHO 滋賀病院消化器内科における学生教育の特色
21 JCHO 滋賀病院における学生実習の現状～ Win-Win の関係を目指して～

インフォメーション

- 22 平成28年度 卒業式
25 平成28年度 大学院 学位授与式
26 平成28年度 各賞授与式
27 医師・保健師・助産師・看護師国家試験の結果
28 研究医コースのご案内



トピックス

Topics

平成29年度 入学宣誓式



学長 塩田 浩平

告辞

本日ここに、ご来賓各位のご臨席を賜り、平成29年度滋賀医科大学学部および大学院の入学式を挙げて下さることは、本学にとって大きな喜びであります。

滋賀医科大学に入学された医学科 100名、看護学科 64名の皆さん、おめでとうございます。滋賀医科大学を代表して皆さんを歓迎し、心よりお慶びを申し上げます。また、受験生活を含め、これまで新入生の皆さんを支えてこられましたご家族ならびにご関係の皆様にもお祝いを申し上げます。

新入生の皆さんは、医師や看護師として医療の世界で活躍し、あるいは医学・看護学の研究者になることを目指し、厳しい受験勉強を経て本学に入学されました。いま皆さんが感じている喜びと決意を忘れることなく、これからの4年間または6年間勉学に励み、有意義で充実した学生生活をこのキャンパスで送ってください。

また、大学院博士課程へ進学された32名、修士課程へ進学された4名の皆さん、ご進学おめでとうございます。皆さんは、一定期間医療の現場などで経験を積まれた後、研究を志して大学院課程に進まれました。これからそれぞれの関心に基づく研究に打ち込み、研究者としての素養を積むと共に、医学・看護学の課題解決に取り組まれることとなります。ぜひ独創的な研究成果を挙げて、医学と看護学の進歩に貢献してください。

滋賀医科大学は、滋賀県で唯一の医科大学として、優れた医療人を育成し、地域医療の充実と質の向上に貢献しています。本学は開学から43年目となりますが、これまでの卒業生が5000名に達し、滋賀県は勿論、全国の医療機関や大学などで活躍しています。また、特色ある研究と高度先進医療の実践によって医学・看護学の進歩と医療の発展に寄与することも本学の重要な使命であります。滋賀医科大学は「地域に支えられ、地域に貢献し、世界に羽ばたく」大学として発展していますが、本日お迎えした若い皆さんが我々の仲間

加わり、本学のさらなる発展のために一緒に力を発揮していただくことを期待しています。

滋賀医科大学の医学科と看護学科の学部教育においては、医師や看護師となるために必要な知識と技能を学習することが中心になりますが、その過程で課題解決能力、コミュニケーション能力を育てるためのカリキュラムを用意しています。また、専門知識だけでなく幅広い教養と高い倫理観を身につけることも重視しています。皆さんがこれまで経験してきた高校までの学習や受験勉強では一定のゴールが設定されており、確実にそこへ到達すれば目的が達せられました。しかし、医療の世界では知識の体系は膨大で、医学も看護学も絶え間なく進歩しているため、皆さんが習得しなければならない事柄が指数関数的に増加しています。大学で教えられるのは医学・看護学の基盤的な内容にすぎません。皆さんはこれから生涯にわたって学習を続けることが必要ですので、自ら能動的に勉強し常に自分の力を高めていくという習慣をぜひ学生時代に身につけてください。

滋賀医科大学は、これまでも医学教育と看護学教育に力を注いできましたが、本年11月には医学教育分野別評価を受審します。これは、本学の医学教育の理念、内容、体制、教育の成果など全般にわたって外部評価委員の詳細な点検評価を受けるものです。この受審を機に、本学の医学教育を抜本的に見直し、その内容と質を向上させて、国際水準の医学教育を推進していく計画であります。

一方、看護学においても社会的なニーズが多様化し、看護師などの仕事の範囲が拡大しています。例えば、これまで医師にしか許されなかった医療行為の一部を看護師の判断で行うことができる「看護師特定行為」の制度が始まりましたし、地域医療の中で在宅看護の重要性が増しています。さらに、助産・保健・福祉や国際医療活動などの分野においても、有能な人材が求められています。そのような時代の要請に対応するため、滋賀医科大学では独自の看護学教育を実施しています。学部の初年次には医学科と合同の講義もありま

すが、医学科と看護学科が同じ教室で学び、また課外活動などを一緒に行うことは、将来チーム医療を協働して進める上でも大いに役立つと信じています。

皆さんが医療人として活躍するためには、医師や看護師の国家試験に合格しなければなりません。これらの試験では、教室で学んだ基礎から臨床にわたる知識だけでなく、臨床実習の現場で遭遇する患者さんの所見や診断手技・看護技術などをきちんと理解しているかを問う問題が近年増えています。医学・看護学の学習は積み上げが大切ですから、これから皆さんが学習する一つ一つの科目を確実に習得し、決して途中で躓くことがないように自らをコントロールしていただきたいと思います。困難と覚えることがあれば、すぐに皆さんの仲間、担任の先生、学生課の職員などに相談してください。

これまで主として勉学について申し上げましたが、皆さんが大学で友人を作り、健康で楽しい学生生活を送ることも重要です。本学ではクラブやサークルなどの課外活動が盛んであり、浜松医科大学との定期的な交流戦などもあります。学業の合間の余暇を見つけて、ぜひ課外活動も楽しんでください。

皆さんは「リレー・フォー・ライフ」という言葉を聞いたことがあるかもしれません。これは、がん患者やその家族の方々を支援し、みんなでがん征圧を目指すチャリティ活動です。これまで世界25カ国、約6000カ所で開催され、日本でも50カ所近くに広まっています。昨年10月には「リレー・フォー・ライフ・ジャパン 2016 滋賀医科大学」が、日本対がん協会の主催、滋賀医科大学と環びわ湖大学・地域コンソーシアムの共催で、この滋賀医大キャンパスで開催されました。学生が主体となって行う「カレッジ・リレー」としてのわが国初の開催でしたが、本学の学生ボランティアの皆さんが中心となって大きな成功を収め、メディアでも報道されました。今年はカレッジリレーの2回目として10月8日、9日の両日、再び本学構内で開催されます。こうした活動に参加してがんサーバイバーや支援の方々と交流することは医科大学の学生にとって意義が大きいと思います。

皆さん一人一人がこれからの大学生活で勉学とその他の活動に全力を尽くし、4年後、6年後に迎える卒業の日真の達成感と充実感、そして大きい喜びを味わっていただくことを願っています。

さて、大学院では、博士課程と修士課程へ併せて36名の皆さんを迎えました。この中には、5名の外国人の方もおられます。大学院の数年間、自らの関心とアイデアに基づいて自由に発想し、研究活動に集中できる貴重な時間です。皆さんには、困難と思わ

れる研究テーマにも果敢に挑戦していただきたいと思っています。

滋賀医大では、アルツハイマー病を中心とした神経難病研究、サルを用いた医学生物学的研究、非感染性疾患（生活習慣病）を中心とした疫学研究、癌治療研究などを重点研究の柱として推進すると共に、各研究者の発想に基づく多様な研究を推進しています。大学院時代は研究者としての素養と能力を磨く期間ですが、その中で研究者としての自覚と正しい研究倫理を身につけてください。

最近、毎年のように日本人がノーベル賞を受賞し、わが国の科学界の存在感が増しています。しかし、日本の科学研究の現状は決して楽観できる状況にはありません。科学雑誌Natureがこの3月23日に日本の科学研究に関する特集号を出しました。その中で、日本の科学研究が過去10年間に明らかに失速し、世界の科学界でのリーダーとしての地位が危うくなっていると警鐘が鳴らされています。世界の科学雑誌に掲載された論文の総数が過去10年間に全体で80%も増加したにもかかわらず、日本からの論文数はわずか14%の伸びにとどまっています。また、自然科学系のトップジャーナルに掲載された論文が、中国などで大きく増加している一方で、わが国からの論文は過去5年間で8%以上減少していると指摘されています。別のデータでは、上位10%のすぐれた論文に占める日本発の論文のシェアが、過去10年間に基礎生命科学で5位から11位に、臨床医学で5位から10位へと大きく後退しました。

こうしたことの原因はいろいろあると考えられますが、研究の主力を担う国立大学への国の予算が過去10年以上に渡って削減され、特に若い研究者のための安定的なポストが減少したこと、目的志向型の短期の研究費が増えて自由な発想で大きな研究テーマに取り組むことが難しくなったことなどがあると思われます。また、日本から外国へ留学する若者が減少しているのも、気がかりな傾向であります。こうした状況を打破するために、われわれ大学人は強い危機感を持って対応に努力しています。皆さんには、パズルの穴埋めでないインパクトのある研究を心がけ、わが国の科学研究の復権にも貢献していただくことを願っています。

本日、滋賀医科大学へ入学された皆さんの学生生活、大学院生活が楽しく、そして充実したものなることを心から祈念し、お祝いの言葉といたします。

平成29年4月4日

平成29年度 医学部 入学宣誓式

平成29年4月4日（火）に本学体育館で挙行し、医学科学生100名、看護学科学生64名の新入生を迎えました。式典では各学科新入生代表による宣誓が行われ、新たな一歩が踏み出されました。

医 学 科 新 入 生



医学科新入生 100名

看 護 学 科 新 入 生



看護学科新入生 64名

平成29年度 大学院 入学宣誓式

平成29年4月4日（火）に本学体育館で挙行し、博士課程32名、修士課程4名の新入生を迎えました。式典では各課程の新入生代表による宣誓が行われ、新たな一歩が踏み出されました。

大学院 新入生



新任教員紹介

New
teacher
introduction

小児科学講座



教授 丸尾 良浩

平成29年1月1日付けで着任いたしました丸尾良浩（まるおよしひろ）と申します。

平成元年に滋賀医科大学9期生として滋賀医科大学を卒業してからは一貫して滋賀県の小児医療に携わって参りました。生まれは神戸市、育ちは静岡市でしたが、母の出身が長浜市であったこともあり、滋賀医科大学に入学してからは滋賀の地に居付いてしまいました。

大学の学生時代はコンピュータクラブ、写真部、SF研究会など文化系を中心に活動し、若鮎祭も第1学年から第4学年まで実行委員をし続けました。写真を撮るために第3学年からはカメラとフィルムをリュックにいれ、バックパッカーとして中国に3回、韓国に2回出かけていました。お金がなく、飛行機も嫌いで、船で回れるところを探したら、中国には大阪南港から、韓国には下関からの釜関フェリーがでており安く行く事ができました。特に中国は一般旅行できるようになってからすぐで、上海からはいり西安、成都、昆明、大理、西寧、南京、蘇州、杭州などの町を蒸気機関車やバスで回りいろいろな経験をしました。当時は予約もなにもないので、上海に船が着いたら、まずは外国人が泊まれる安ホテルに行き、泊まれるかどうかの交渉から始まり、次にどこの町に行くかを決めて、駅で人の列に並び切符を買うなど行き当たりばったりのたびでした。いろんな文化に触れ、経験することは大切だと感じました。

学生時代より遺伝子に興味があり、遺伝性疾患の診

療に携わりたいと思い、滋賀医科大学小児科に入局しました。小児科においては当時より先天性代謝疾患を中心に小児科全般を学んで参りました。現在は内分泌代謝外来を担当し、滋賀県における先天代謝異常精密検査（新生児マススクリーニング）のすべてにおいて責任をもち診療しております。小児の診療の醍醐味は、患者さんが赤ちゃんから成人になるまでの過程に寄り添いながら診療にあたる事です。今では赤ちゃんだった患者さんが、結婚し、こどもを連れて外来に来てくれる事もあります。成長の過程に携われるのはとてもやりがいがあります。

研究におきましては、大学院時代に生物学教室の佐藤浩前教授に、遺伝性高ビリルビン血症（Crigler-Najjar 症候群、Gilbert 症候群）の分子遺伝学的研究について学び、それを基に新生児高ビリルビン血症や母乳性黄疸の原因変異の同定などを行って参りました。また、その時学んだ研究手法を応用し、先天性甲状腺機能低下症の分子遺伝学的原因背景の解明を行ってきました。大学院でじっくり学び研究することは、目の前の患者さんの病気の原因解明から遺伝カウンセリングを行う上でとても役に立ちました。

滋賀においては滋賀県の病院小児科勤務医の70%を滋賀医科大学小児科の同門の先生が支えております。これは、竹内義博前教授が築いてきた成果です。その滋賀県の小児医療を発展させるために尽力いたしますので、よろしく願いいたします。

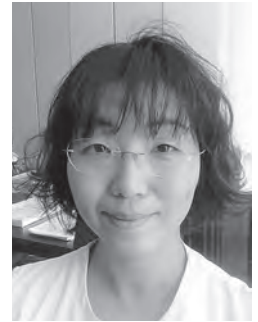
経
歴

1989年 3月 滋賀医科大学医学部卒業
1989年 6月 滋賀医科大学附属病院 研修医(小児科)
1990年 12月 第一びわこ学園小児科 医員
1991年 4月 滋賀医科大学附属病院小児科 研修医
1991年 6月 滋賀医科大学附属病院小児科 医員
1992年 4月 近江八幡市民病院 小児科医員
1995年 4月 滋賀医科大学大学院医学研究科入学
1999年 4月 滋賀医科大学附属病院小児科 助手
2005年 7月 滋賀医科大学附属病院小児科 講師(学内)
2009年 7月 滋賀医科大学附属病院小児科 講師

2013年 1-5月
カリフォルニア大学サンディエゴ校
Visiting researcher
2017年 1月 滋賀医科大学小児科学講座 教授

臨床看護学講座（精神）

教授 河村 奈美子



このたび2017年4月1日付けで臨床看護学講座精神領域の教授を拝命いたしました。私は1997年に北海道医療大学を1期生として卒業し、その後看護師として精神科や総合診療科・腎泌尿器外科病棟に勤め、途中で大学院に進み精神看護学を学びました。当時北海道では1つ目の看護系大学ということもあり、北海道外から来られた勢いある先生方の講義を受け、その勢いに圧倒される日々を過ごしたことを覚えています。今思うと講義の内容よりも、看護の大学教育に向けた先生方のメッセージのほうが心に残っています。学部生の頃は松岡淳夫先生の教室で研究や学会発表を経験させていただきました。また精神看護学の実習では年齢の若い患者様を担当し、一緒に過ごさせていただく中で、精神疾患を持ち続けることやそのケアやその方の将来について、毎日ただただ考えることしかできず、悩んでいた記憶があります。精神疾患を持って生活することがどうあったらいいのだろう、という大きな疑問になんの答えも出ないまま、でもそれをもっと考えたいと思い精神科に就職し、大学院に進みました。大学院では指導教員がアメリカで開業されていた専門看護師のRita weingourt先生で、国外の精神看護の水準や専門性に触れ、院生皆で朝から夜まで毎日必死に楽しく？過ごしました。大学院修了後、臨床を経験し、その後教員として旭川医科大学医学部看護学科、札幌市立大学看護学部、大分大学医学部看護学科を経て、このたび滋賀医科大学にまいりました。その間、奈良女子大学大学院博士後期課程において麻生武先生の教室で動物を媒介とした認知症高齢者のコミュニケーションに関する

研究をすすめ博士を取得しました。研究は、そのほか摂食障害を持つ思春期の入院患者の経験や、ホースセラピーを活用した発達障害を持つ子どもの社会的コミュニケーションの発達、精神看護教育、等に関して取り組んできました。また、大分市や別府市と近隣で働く臨床看護師を対象に事例検討会や学習会を定期開催し、大学病院や中核病院、訪問看護ステーションなどの枠を超えた、ざっくばらんな意見交換の場を企画運営してきました。私自身が多くの先生方、看護スタッフ、学生、同僚の皆さんからたくさん学ばせて頂いております。

学部生や大学院生の実習指導では、学生の柔軟な思考や、患者様に向き合う丁寧さ、気づきに触れ、毎回のよう私自身に新鮮な学びがあり、学生と一緒に看護のプロセスを通して心を動かせる経験ができることはとても楽しいです。今後は、滋賀医科大学の学生の皆さんと、講義や実習、研究を通して、議論を重ね看護を実践しながら学びを深めていけることを、とても楽しみに感じております。ぜひ学生の皆さんには気づきを大事にしなが、感性を磨いていってほしいと思います。

最近では精神疾患の早期診断や支援が可能になり、早期の地域生活や就労継続の支援の重要性が強調されています。講義資料を作成しながら、私が学部の時はいくつも理解できていなかった、精神看護の阿保順子先生のモデルの奥深さや意義など教員の経験が増すごとに感じ、広い視野を養う基礎教育の重要性と責任を感じてきております。まだまだ精神看護領域の構築には試行錯誤が続くと思いますが、どうぞ皆様のご指導とご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

経歴

- 1997年 3月 北海道医療大学看護福祉学部看護学科卒業
- 1997年 4月 札幌医科大学医学部付属病院職員 看護師
- 1998年 4月 札幌医科大学大学院修士課程保健医療学研究科看護学専攻(2000年4月修了)
- 2000年 4月 札幌医科大学医学部付属病院職員 看護師
- 2002年 7月 旭川医科大学医学部看護学科 助手
- 2006年 4月 札幌市立大学看護学部看護学科 助手
(2008年より助教)
- 2007年 4月 奈良女子大学大学院博士課程人間文化研究科社会生活環境学専攻(2010年3月修了)
- 2012年 4月 大分大学医学部看護学科 准教授

- 2015年 8月 大分大学医学部看護学科 教授
- 2017年 4月 滋賀医科大学医学部看護学科 教授

眼科学講座



准教授 西信 良嗣

2017年4月1日付けで眼科学講座の准教授に着任いたしました西信良嗣と申します。この場をお借りしてご挨拶を申し上げます。

私は1993年に奈良県立医科大学を卒業後、田野保雄教授が主宰する大阪大学医学部眼科学教室に入局しました。入局後は大阪大学医学部附属病院および大阪府立病院（現大阪府立急性期・総合医療センター）にて一般眼科診療、特に白内障手術と網膜疾患に関して研鑽を積んでまいりました。研修医当時より網膜疾患に興味があり、日常臨床の傍ら大阪大学眼科学教室の研究室で基礎実験の訓練を受けました。その後、網膜疾患の研究を深めるため、大阪大学大学院医学研究科に進学をいたしました。大学院時代には遠山正彌教授が主宰する第二解剖学教室にて分子生物学、神経科学を中心とした研究にはげみ、新規の網膜特異的遺伝子 retinal fascin をクローニングし機能解析を行うことに成功しました。後にこの遺伝子は網膜色素変性の原因遺伝子の1つであることが証明されました。研究に対する基本的な考え方を学ぶことができた貴重な4年間でした。2001年からは米国メリーランド州のジョンズ・ホプキンス大学へ留学をいたしました。3年間の留学中は、加齢黄斑変性などの網膜疾患の治療を念頭においた網脈絡膜血管新生に関する研究を主に行っていました。研究室が大学のクリニックの近くにあったこともあり、日本とは異なった医療制度を見聞したり、臨床のフェローから日本では経験しないような臨床症例を聞いたりすることもでき、大変充実した留学生活

を送ることができました。

2004年に帰国後は今までの経験を生かし、大阪大学医学部附属病院において、一般眼科の診療、手術に携わるとともに、眼炎症専門外来を担当し、地域の基幹病院から紹介される多数の難症例に対し、外科的治療を中心に積極的な治療を行ってきました。眼炎症疾患は眼科の中でも特に全身疾患を伴うことが多く、内科や小児科など他科の先生方との連携を大切にまいりました。2005年からは、病棟医長、外来医長を歴任し、スーパーローテーター、後期研修医の指導責任者として、後輩の指導にあたりました。

2009年からは、東邦大学医療センター佐倉病院眼科准教授として、主に手術を指導し、地域の病院より紹介される網膜硝子体疾患症例の執刀に積極的に取り組んでまいりました。

2011年から滋賀医大でお世話になっております。人は外界からの情報の90%を「見る」ことから得ています。見えることで得られる高いQOLを維持することが眼科医の使命です。眼科の面白さと奥深さを感じ取っていただけるように、今までの経験を生かし臨床、研究および教育に精一杯頑張る所存ですので、今後ともご指導、ご鞭撻の程よろしくお願い申し上げます。

経歴

1993年	3月	奈良県立医科大学医学部	卒業
1999年	3月	大阪大学大学院医学研究科	博士課程卒業
2001年	1月	米国ジョンズ・ホプキンス大学	へ留学
2004年	10月	大阪大学眼科	助手
2009年	4月	東邦大学医療センター佐倉病院眼科	准教授
2011年	4月	滋賀医科大学附属病院眼科	特任講師
2014年	5月	滋賀医科大学眼科学講座	講師
2017年	4月	滋賀医科大学眼科学講座	准教授

地域医療教育研究拠点(JCHO 滋賀病院)



准教授 内藤 弘之

2017年4月より滋賀医科大学 地域医療教育研究拠点 准教授を拝命し、地域医療機能推進機構 滋賀病院(JCHO 滋賀病院)に赴任致しました、滋賀医科大学7期生の内藤弘之です。学生時代は硬式庭球部に所属していて、暗くなるまでテニスコートを走り回っていたのがついこの間のように思えます。当時は卒業時にはどの診療科に入局するか決めている時代で、手術ができる、重症管理ができる、広い範囲の知識を持ちたい、などの希望から、当時の滋賀医科大学第一外科(小玉正智教授)に入局しました。研修医、一次出張のあと滋賀医科大学大学院に進み、病理学第一講座(服部隆則教授)にお世話になり、食道癌の遺伝子研究をさせて頂きました。そして1995年4月から滋賀医科大学附属病院に12年勤務致しました。大学病院では多くのさまざまな消化器疾患や乳腺疾患、鼠径ヘルニアなどの一般外科の手術を経験させて頂いた後、食道、胃疾患を中心とした上部消化管手術をさらに特化して行ってまいりました。その後、医療法人社団昂会での10年間(日野記念病院8年7カ月、能登川病院1年5カ月)は東近江医療圏の地域医療に外科医として、数多くの手術や救急医療に携わってきました。そして本年度、医師となって節目の31年目にJCHO 滋賀病院に勤務することとなりました。

実はJCHO 滋賀病院は私にとっては極めて地元の病院に当たります。生まれは穴太(あのうと読みます)、京阪電車石坂線の日吉大社近くの終点坂本駅のふたつ前の駅です。石積の穴太衆で有名なところです。滋賀大学附属幼稚園、小、中学生時代は穴太から錦駅まで

乗車、膳所高時代は膳所本町まで乗車していました。そしてJCHO 滋賀病院の最寄りの駅は膳所本町から石山よりに三駅の粟津駅です。穴太に住んでいた際、家族のかかりつけ医はもとJCHO 滋賀病院の外科部長で、何かあればJCHO 滋賀病院に紹介され祖父母とも手術を受けています。

昨年度、滋賀医科大学とJCHO 滋賀病院は「地域医療教育研究拠点」に関する協定を結び、すべての学生が実習に来ることになりました。また日野記念病院時代から堅田看護専門学校の消化器疾患の講師を務めてきましたが、堅田看護専門学校の実習先がJCHO 滋賀病院です。何かと縁深いJCHO 滋賀病院に滋賀医科大学准教授という立場で赴任するにあたり、地域医療に貢献するのはもちろんのこと、少しでも滋賀医科大学の学生教育の一端を担えたらと思っております。今後ともより一層のご指導を賜りますよう宜しくお願い申し上げます。

経歴

- 1987年 3月 滋賀医科大学医学部卒業
- 1987年 6月 滋賀医科大学第一外科医員(研修医)
- 1988年 12月 能登川病院 外科
- 1991年 4月 滋賀医科大学大学院医学研究科入学
- 1995年 3月 滋賀医科大学大学院医学研究科修了
- 1995年 4月 滋賀医科大学第一外科医員
- 1998年 10月 滋賀医科大学 外科学講座 助手
- 2005年 3月 滋賀医科大学 外科学講座 学内講師
- 2007年 4月 日野記念病院 副院長
- 2015年 11月 東近江市立能登川病院 副院長

- 2017年 4月 滋賀医科大学 地域医療教育研究拠点 准教授
(地域医療機能推進機構 滋賀病院 消化器外科診療部長)

臨床看護学講座（老年）



准教授 荻田 美穂子

平成29年4月1日付けで、臨床看護学講座の准教授を拝命いたしました。滋賀医科大学には、修士課程の2年間、助教時代の2年間お世話になり、7年ぶりに戻って参りました。滋賀医科大学は私が研究の道を志した場所で、再びこの地で仕事させていただく機会を得たことを大変嬉しく感じるとともに、身の引き締まる思いです。

私が看護師として最初に勤めた病棟は、根治が難しい神経難病患者や高齢患者が多い病棟でした。身体症状の進行に伴う転倒や治療が終わり病気は軽快しても加齢に伴う身体的・精神的・社会的問題により在院日数が長くなっている患者が多かったです。入院が患者を不健康な状態にしてしまっているのではないかと虚無と虚脱感がありました。このような二次的障害や加齢に伴う問題を何とかしたいと思ったことが私の研究の原点です。

そして、修士課程では脳神経機能障害を有する患者の転倒要因に関する研究、博士課程では高齢者の胃瘻選択にかかるとの問題に関する研究や高齢者の再入院や在院日数延長要因に関する研究を行ってきました。また、現在は地域高齢者のコホート研究も行っています。これらの一連の研究を通して、転倒予防やフレイル予防のための新たな予測因子や高齢者診療における多職種連携の意義が明らかになってきました。今後の研究の方向性として、これらの知見を日常のケア場面に反映させたfeasibility studyによる高齢者の健康及び生活の維持に対する看護介入の効果検証が重要となると考

えています。

修士・博士課程での5年間、また助教時代の2年間はさまざまな研究に従事させていただく機会を得、単に研究方法論を学ぶということではなく、実践の中で研究遂行能力を鍛える機会になっていたように思います。また、ゼミでのさまざまな人との意見交換は論理的思考をトレーニングする機会となり、研究を魅力的かつ正確に説明する力をつけることにもなっていました。苦労はありましたが、今はこのプロセスに大変感謝しています。また、これまでに多くの研究の仲間を横断的に作る機会に恵まれ、そのネットワークが研究を行っていく上での大きな支えとなっています。

学生さんには、目の前に存在する患者の悲しみや辛さの本質を理解し、直接的なケア提供や臨床的視点を持った研究を進めていく力を身に付けて欲しいと思っています。学ぶことの面白さを共に分かち合い学生さんと共に学び続けたいと考えています。

これまでに魅力的な指導者や研究者の先生方に恵まれ、傍でその思想に触れることができたことに大変感謝しています。次は自身の研究室を創出していく立場になりました。修士課程に入った当時私が感じたように、研究の面白さが実感でき、学生さんが当研究室を選択したことをメリットとして感じてくれるような価値のある研究室を育てていきたいと痛切に感じています。

教員としても、研究者としても未熟者でございます。皆様のご指導とご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

経歴

1999年 3月 日本バプテスト看護専門学校卒業
 1999年 4月 京都大学医学部附属病院 神経内科・老年内科病棟
 看護師（～2003年3月）
 2005年 4月 滋賀医科大学大学院医学系研究科看護学専攻
 修士課程入学
 2007年 3月 滋賀医科大学大学院医学系研究科看護学専攻
 修士（看護学）取得
 2007年 4月 京都市立看護短期大学 助教（～2008年3月）
 2008年 4月 滋賀医科大学医学部看護学科臨床看護学講座
 助教（～2010年3月）

2010年 4月 京都大学大学院医学研究科人間健康科学系専攻
 博士後期課程入学
 2012年 4月 京都光華女子大学健康科学部看護学科 講師
 （～2015年4月）
 2013年 3月 京都大学大学院医学研究科人間健康科学系専攻
 博士（人間健康科学）取得
 2015年 6月 京都光華女子大学健康科学部看護学科
 准教授（～2017年3月）
 2017年 4月 滋賀医科大学医学部看護学科臨床看護学講座 准教授

キャンパス
ライフ
Campus
life

平成29年度 新入生宿泊研修

4月6・7日の両日、休暇村近江八幡において、平成29年度新入生宿泊研修を実施しました。研修には、医学科、看護学科の新入生および引率教職員の総勢約180名が参加しました。

初日は、飯ごう炊さんから始まり、「滋賀と滋賀医大の魅力」「里親学生支援について」「医療人としてのマナー」「湖医会（同窓会）の支援事業」と題した講演会と、学科・クラス別懇談会が行われました。2日目は、「医療と人権」「薬害とアルコールについて」と題した講演会が行われた他、少年犯罪被害当事者の会から一井彩子様をお招きして「命の大切さ」についてご講演いただきました。その後、大学に戻り、病理学講座（分子診断病理学）向所准教授による「滋賀医科大学入学に際しての心構え」と題したワークショップが実施されました。

● 新入生宿泊研修に参加して

医学科第1学年 大西 良茉

入学してすぐの宿泊研修。新しい環境に対して期待と不安が入りまじったなかその日を迎えました。毎年恒例である休暇村近江八幡に行きました。着くとすぐ飯ごう炊さんが始まり、みんな次第に打ち解けていきました。協力して作ったカレーはとても美味しかったです。

滋賀と滋賀医大の魅力についての講義では、大阪出身で滋賀といえば琵琶湖しかないと思っていた僕にとって、滋賀の歴史や自然の豊かさを知る機会となり驚かされました。医療人としてのマナーの講義では、これから6年間の大学生活やその後の将来について、医療人としてどうあるべきかを考えることができ、入学で緩んだ心が引き締まりました。クラス別懇談会では自己紹介をしました。クラスみんなは個性的で楽しい時間を過ごせました。これからの学生生活をこのメンバーで過ごすのがとても楽しみです。

2日目の命の大切さを学ぶ教室では、ニュースで見るとような話の実体験を話してくださり、とても考えさ

せられる内容でした。ワークショップではみんな真剣に取り組み、素晴らしい議論ができました。

この2日間の合宿でみんなと交流し、仲が深まったと思います。滋賀医大生として切磋琢磨し頑張っていきたいと思います。



医学科第1学年 雪上 晴加



入学して間もなく行われた宿泊研修。入学できた喜びと新しい環境への不安を感じつつバスに乗り込み、1時間ほどして雄大な自然に囲ま

れた休暇村近江八幡に到着しました。

着いてすぐに取り組んだ飯ごう炊さんは、顔を合わせたばかりの10人が自己紹介するところから始まったのですが、火をおこしたり野菜を切ったりなどを協力して行ううちに緊張がほぐれ、カレーライスが出来上がる頃にはすっかり打ち解けることができました。

その後は、哲学や、タバコ・飲酒・薬物の害、犯罪被害者の遺族の方の講演等々、様々な講義を受けました。その中で私が一番心に残っているのは、2日目のワークショップです。どのような医療人になりたいか、またそのために学生時代にできることは何かというテ

ーマのもとディスカッションしました。考えをまとめていくうちに、これから自分は医療人になるという自覚を持つことができ、これからの大学生活をどう過ごすべきかを考え直す良い機会になりました。

今回の研修をきっかけにできた人とのつながりや、感じたこと考えたことを核としながら、これからの大学生活を有意義なものにしていきたいと思います。



看護学科第1学年 井尾 風馬

入学して間もなく新入生宿泊研修があり、看護学科で男子一人の僕は、正直まだ話せる人が少なくとても不安でした。ですが、飯ごう炊さんを通して今まで話せなかった人とも話すことができ、嬉しかったです。懇談会においても、みんなの自己紹介を聞いて趣味の合う人を探したり、実際に話したりして充実した時間を過ごせたと思います。

しかし、講義に関しては少し思うところがあります。ためになる講義ばかりだということは理解していますが、やはりいくつも続くと集中力がもたない人も現れ、全体として講義を聞くということができていなかったと思います。2日間であの量の講義を行うことは少し無理があるのではないかと思います。

また、事前に配付されていたタイムテーブル通りに進まなかったことも改善を要する点だと思います。バスの移動が予定より30分長く、その影響で飯ごう炊さんの時間を大幅に削り、講義は予定通りに行うという進め方に疑問を持つ学生も多くいました。バスの移動

時間は予測できるものだと思いますし、忙しさで集中力が欠けた状態で講義を受けても、先生方に失礼だと思いました。

医学科においても看護学科においても、友好関係を深めるという点ではこの宿泊研修はとても意味のあるものだと感じました。これらの点をもう少し見直すことで、よりよい宿泊研修になると思います。



看護学科第1学年 稲垣 玲奈



入学式が終わり、ばたばたとしているうちに始まった宿泊研修。バスで田んぼ道をしばらく行くと、緑に囲まれた休暇村が見えてきました。

名簿の近い人と少し話したただけだった私はとても緊張していましたが、飯ごう炊さんが始まるとすぐに打ち解けることができました。午後からはあいにくの雨でしたが、滋賀の魅力についての講義では、ずっと滋賀に住んでいる私も知らない滋賀の歴史や観光地を知ることができました。県外から来ている友達を誘って行ってみたいと思います。懇談会以後は、入浴や晩御飯の時などに友達の友達とも話す機会が多く、みんなでわいわい楽しく過ごせました。

翌日は喫煙や飲酒、命の大切さについての講義を受けました。喫煙や飲酒は、マナーやルールを守らな

ければ、自らの健康に悪影響を与えるだけでなく、周囲の人にも迷惑がかかるということを再認識することができました。命の大切さについての講義では、被害者側の悲痛な思いを聞くことで、普段の生活においても、相手の立場で物事を考え、思いやりを持って行動しようと改めて思うことができました。

また2日間ともに、医療人としてのマナーという講義を受け、受験が終わり浮かれていた私は、自分が目指す医療人というものをもう一度考え、充実した4年間になるよう努めようと思いました。



看護学科第3年次編入 寺尾 彩貴子

暖かな春の陽気に包まれた4月、期待と緊張で迎えた入学式。そんな入学式からほとんど日を置かずして新入生宿泊研修を迎えました。入学後の数日間、編入生同士でしか会話していなかった私は、話したことのない1年生と同じ班で活動することに不安しかありませんでした。

休暇村に到着して早々、飯ごう炊さんの班に分かれてカレーを作りました。役割分担をして作業する中で、1年生のみんなとも冗談を言い合うぐらい仲良く話せるようになっていました。その後行われた看護学科の懇談会では一人一人自己紹介を行いました。地元が同じ人、趣味が合う人を見つけることができ、お互いを知る良い機会になりました。

2日間の講義では、滋賀県の歴史や観光地、医療人としてのマナー、薬害と飲酒、さらには人権についての講義がありました。どの講義も非常に興味深く、良い学びを得ることができました。

今回の宿泊研修を通して新入生同士の親睦を深める

ことができました。これから2年間と短い学生生活ではありますが、その2年間が有意義なものになるようにしたいと思います。



第42回 浜松医科大学との交流会

第42回浜松医科大学・滋賀医科大学交流会が、今年度は本学を主会場として5月12日（金）および13日（土）に実施されました。本交流会は、学生・大学間の交流を深めることを目的に、例年相互の大学を会場に実施しています。

交流会参加者は両校で約600余名となり、体育館で開会式が行われた後、各競技において熱戦が繰り広げられました。対戦成績は15戦9勝6敗で本学の総合優勝となり、優勝杯を手にすることができました。

この結果、通算で本学の22勝14敗6引き分けとなり、来年の浜松医大での再会を約束し交流会は終了しました。

競技結果

平成29年5月12日（金）・13日（土）

種目		滋賀	浜松
硬式庭球	男	×	3-5 ○
	女	×	2-10 ○
剣道		×	1-2 ○
準硬式野球		×	7-6 ○
バスケットボール	男	×	54-60 ○
	女	○	66-30 ×
バレーボール	男	○	2-1 ×
	女	×	1-1 ○
バドミントン	男	○	4-1 ×
	女	○	5-0 ×

※バレーボール女子は2セットの得失点差で浜松医科大学の勝利

種目		滋賀	浜松
ヨット		○	×
ボート	男	○	×
	女	○	×
ハンドボール		○	28-20 ×
空手道		試合不実施	
ゴルフ		○	339-395 ×
水泳	男	試合不実施	
	女	試合不実施	
総合結果			
		滋賀医科大学 9対6	浜松医科大学

※ 通算（滋賀医科大学） 22勝 14敗 6引き分け



● 浜松医科大学との交流会に参加して

体育会長 高内 拓海

浜松医科大学との交流会も今年で第42回となりました。この伝統ある交流会を、当番校の体育会長として迎えることができ、大変光栄に思います。今回の交流会の運営に関しては、体育会幹部（交流会担当）の山本さんにたいへん尽力していただきました。ご協力いただいた両校の先生方や職員の方々、また選手の皆さんに、この場を借りて感謝を申し上げたいと思います。

開催を直前に控え、悪天候の予報を耳にし、実施できない競技が出てくるかもしれないと心配しておりました。しかし、1日目の天候は何とか持ちこたえ、1日目の夜から2日目の午前中にかけて雨が降る程度で済み、屋外競技の多くも無事に実施でき、大変喜ばしく思うとともに、安心しました。交流会の結果は9勝6敗と、当番校として恥ずかしくない結果を残すことができたように思います。

私自身としては4度目の交流会となりましたが、浜松医科大学の仲間には毎年刺激をもらおうと同時に、親交もより深くなっていると思います。開会式でのあい

さつで申しましたように、両校の各クラブ、各部員にとって、この交流会はとても価値あるものになっていると感じています。自分たちの実力を実感し、夏の大会に向けてさらにモチベーションを上げていくとともに、多くの学生と知り合い、交友の輪が広がる良い機会だと思います。この交流会で得たことが両校の糧になり、また両校学生においても何事にも代えがたい経験になることを期待しています。



第42回 浜医交流会担当委員 山本 真梨乃

まず始めに、交流会を開催するに当たりご尽力いただきました先生方、職員の方々にこの場を借りて厚く御礼申し上げます。

今年で42回目を迎えるこの交流会ですが、浜松医科大学の学生が本学学生の呼びかけに応じて始まった、という経緯があります。大学全体での行事でありながらもあくまで学生主体で開催されるこの交流会に委員として携わらせていただき、大変名誉なことと思います。「自分に出来るのか」という不安がありましたが無事に終えることができ、ほっとしています。

今年は本学での開催ということで学生側の取りまとめをさせていただきました。どこで何が行われるのか、どのくらいの人数が参加するのか、レセプションの食事の量はどれくらいがいいのかなど、全員に満足してもらうためにどうすればいいのか考えるのが大変でしたが、当日には皆が楽しんでいる様子を見て安心したのを覚えています。さまざまな準備に始まり当日に至るまで多くの方に協力をお願いしたのですが、皆快く

手助けしてくれたことはとても頼もしくそして嬉しく思いました。私一人だけでは到底出来るものではありませんでした。

私は今回の交流会委員を通じて、学生同士が協力すればこのような大きな行事も実行できるのだということ学びました。これは、私達の学生生活にも言えることだと思います。将来に向けて一人一人が自主的にそして協力して行動することで大きな成果を生むことが出来るのではないのでしょうか。

2日間大きな事故もなく、無事交流会を終えることができ、ご協力くださった皆様に改めて御礼申し上げます。また後輩たちには来年以降も素晴らしい交流会が開催できるように頑張ってもらいたいと思います。



第40回 解剖体納骨慰霊法要・納骨式

5月27日（土）午前10時30分から、比叡山延暦寺阿弥陀堂においてご遺族、ご来賓、しゃくなげ会会員および学生、教職員総勢約470名が参列し、第40回解剖体納骨慰霊法要が執り行われました。

法要の中で、塩田学長から、今回お祀りした57柱の御霊及びご遺族に対し、慰霊と感謝の意が述べられるとともに、「学生は解剖学実習を通じて、自らの目と手で人体の構造を詳細に確認し、それによって人体の複雑さと精巧さを学習し、また内臓や血管・神経などの細部の構造が一人一人違うということを理解する。さらに重要なことは、医学教育のために御献体いただいたご遺体に接して解剖させていただくことにより、すべての学生が、ご献体いただいた方の尊い御遺志に深く感謝し、立派な医療人になる覚悟を新たにすることであり、ご遺体こそがすべてに勝る先生である」と述べられました。

続いて、学生代表の小林裕幸君が、「ご献体いた

いた故人は私達に、医師にとって欠かせないもの、すなわち利他的精神や人と人との信頼関係の大切さをお示しくださったのです。医学の発展を願って御献体をされた故人の信頼を裏切ることのないよう、私たちは患者さんに信頼され、笑顔を贈ることができるような医師になりたい」とご霊前に誓い、故人のご冥福をお祈りしました。

法要に引き続き、故人（献体者）に対する文部科学大臣の感謝状を学長からご遺族代表にお渡しし、併せて、学生の手によりご遺骨をお返ししました。

また、午後からは比叡山横川の大学霊安墓地において、ご遺族、ご来賓、学生等の参列の下に、納骨式が執り行われ、分骨いただいたご遺骨が納骨堂に安置されました。

当日は穏やかな気候のもと、たくさんのご遺族が大学の霊安墓地を訪れられ、鮮やかに咲いたしゃくなげの花を眺めながら、故人を偲んでおられました。



図書館からの
お知らせ
News from
the library

新入生歓迎企画



本学教職員が薦めるこの本 2017



新入生、新規採用職員の皆さん、滋賀医大へようこそ！
図書館では、良き医療人を目指し、これから本学で学ばれる皆さんのために、
8名の先生方から図書のご推薦とコメントをいただき、
展示する企画を開催しました。(2017年4月5日 - 5月19日)
展示図書は、すべて図書館で所蔵しています。
ぜひ実物も手に取ってご覧ください!!



図書館長

内科学講座
(循環器内科)

堀江 稔 先生

もうすぐ夏至だ／永田和宏

914
6
Nag

作者、永田和宏は滋賀県出身の著名な細胞生物学者であり、同時に歌人である。この本の表題は、かれの『一日が過ぎれば一日減っていく君との時間もうすぐ夏至だ』から取られている。乳癌で亡くなった妻、河野裕子との思い出や、自分や家族のこと、大学や研究のことを、ユーモアとペーソスを交えてつづったエッセイ集である。流石、短歌の表現者だけあって、そのエッセイは、簡潔にもかかわらずメッセージ性が高い。その研究者としての生き方に共感する読者も多いようである。彼には歌人としての他の多くの著書もあり、ぜひ合わせて読んでいただきたい。

新・生き方としての健康科学／朝倉隆司

WA
100
Shi

入学・進級おめでとございます。
志望校への入学を大きな目標として高校生活や浪人生活を送ってこられたことと思います。そして医療人としての道を選ばれた皆さんがこの道を進むに際し、まずは皆さん自身が、自分らしく健康的で人生を主体的に生きる力やスキルを培ってほしいと願います。
そんな私がお勧めしたいのは、この4月に刊行された朝倉隆司編集「新・生き方としての健康科学」です。大学生をはじめとした若者向けに編纂され、一般教養としての保健の教科書としても採用されてきた著作の改訂版です。私も一部執筆しています。読み物としても興味ぶかいと思います。大学生として、医療人としてのスタートに是非手に取ってほしい1冊です。



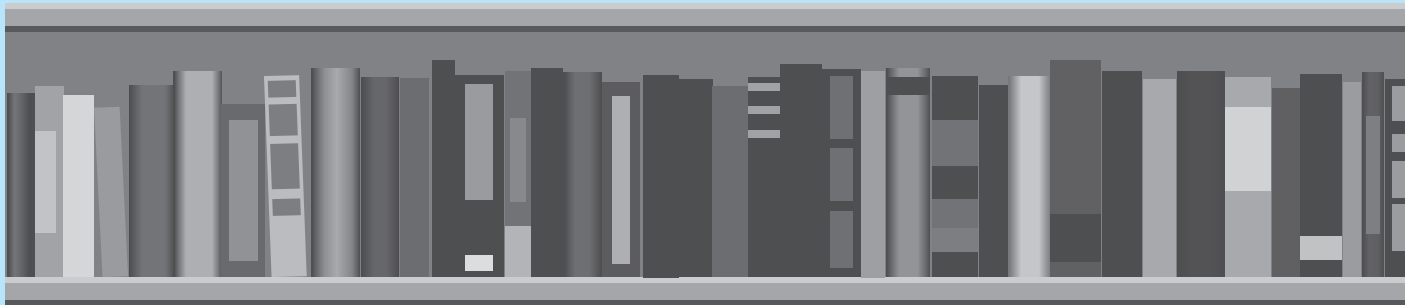
公衆衛生看護学講座

伊藤 美樹子 先生

日本語の作文技術／本多勝一

816
Hon

そしてもう一冊お勧めしたいのは、「日本語の作文技術」です。著者は元朝日新聞の編集委員であり、本書では誤解なくわかりやすく伝える「実用的な文章」を書く技術を取り上げています。
思ったこと、考えたことを言語化するのは大変な仕事ですが、それをわかりやすく伝えることも重要な仕事です。この本は例文が多く解説があるので、理系諸君にもわかりやすいと思います。本書で良い例として紹介される井伏鱒二や梅棹忠夫の文章はなるほど整っています。大学院の頃、私の書くものはしばしば「吉本ばななみたい」と言われました。一文がやたら長いという揶揄です。実際の吉本ばななの筆致は、たとえ一文が長くても読ませます。伝える技術を持っているからです。そんな時に、頼りにしたのが本書です。私が大学院時代に参考にしたのは1982年に刊行された初版ですが、2015年にそれを再編集した新版が出されました。今回、久方ぶりに読み返してみた新版は、語釈や例文に人格が溢れていると話題になった新明解第三版(三省堂)を彷彿とさせ、新たな味わいを感じました。是非。



内科学講座
(糖尿病内分泌内科)

前川 聡 先生

ミラクル：エリザベス・ヒューズとインスリン発見の物語 ／シア・クーパー、アーサー・アインスバーグ

WK
820
Mir

インスリンの発見ほど人々の関心を呼んできたものはない、発見の翌年には早くもノーベル生理学・医学賞が授与されたことはあまりにも有名である。インスリンの発見については、G・レンチャル、G・ヘテニー W・フィーズビー著の「インシュリン物語」(岩波書店)やマイケル・プリズ著の「インスリンの発見」(朝日新聞社)などの書物が良く知られているが、インスリンを待ち焦がれた1型糖尿病患者を中心に、インスリンの研究者や製薬会社の人々が織り成す感動的な人間ドラマを描いた物語で、「医学研究は患者さんのために」を考えさせられる名著である。

大学とは何か／吉見俊哉

IS
R2
1318

新入生の皆さんがこれから6年間または4年間を過ごす大学(もちろん、滋賀医科大学も含まれます)とは一体どのようなものなのでしょうか?本書では世界(世界初の大学というものは12世紀にイタリアでできた)および日本の“大学”について、その成り立ちから現在に至るまでの状況を示し、今後の“大学”の在り方について考察しています。日本の多くの大学は、現在、様々な意味で(特に、経済的に)厳しい状況にあります。今後、10年、20年、30年…と、大学は現在の状態のまま存続し続けられるのでしょうか。また、どうあるべきなのでしょう。本書を読んで、是非皆さん考えてみて下さい。



生化学・分子生物学講座
(分子病態生化学)

扇田 久和 先生

幸福論／アラン

IB
33
656-2

人は昔から洋の東西を問わず不幸に思い悩み、幸福を求めてきました。それに答えるべく様々な「幸福論」が世に出ています。本書は今までの幸せになれるためのハウツー本ではなく、哲学書に分類されるものです。しかし、難解な哲学書と言うよりは、日常生活における不満や不幸を対処する(幸福に過ごす)のにどうしたらいいか、1編が原稿用紙2枚程度の分量で、93編に渡って語られています。20世紀初めにフランスで書かれたものですが、現在にも通じる内容(医学的内容には疑問点もありますが)だと思います。これからの大学生活、もしつらいことがあったら(あるいは、つらくなる前に)、本書を手にとってみてはいかがでしょうか。

白夜／渡辺淳一

913
6
Wat

本書は最近亡くなられた著者(もとは整形外科医)の自伝的小説です。著者の小説では濃密な男女関係を描いたものも有名ですが、本書は主人公(著者)が医科大学に進学する過程から医師を経て、紆余曲折の末、作家になるまでの経緯・気持ちをかなり赤裸々に記しています。時代背景は主に昭和30~40年代ですので、現在から見ると、「そんな医療をやっているのか」と突っ込みたくなる場面もあります。現在とその当時の医師になるまでのシステム(インターン制)の違いなども分かります。どこまで正確か分かりませんが、日本初の心臓移植の内幕も一部記されています。節目節目で主人公が進路に悩んでいる様子は、医学科の皆さんの参考になるかもしれません。

赤ひげ診療譚

／山本周五郎

913
6
Yam

医学生になじみやすい本として、「赤ひげ診療譚」、アーサー・ヘイリー「最後の診断」、クローニン「城塞」（いずれも新潮文庫）をすすめるが、後者はいずれも絶版で今では手に入れることが難しい。歴史物で司馬遼太郎「胡蝶の夢」も良いが、司馬史観を知るための入門書には「坂の上の雲」が一般的であろう。

今日われ生きてあり

／神坂次郎

916
Kos

「今日われ生きてあり」の読後は言葉が出ない。空気密度が濃い本である。悩みごとのある人、思いつめている人があれば、この本をおすすめしたい。いかに自分がちっぽけな存在で、小さなことやくだらないことで悩んでいるかに気づく。是非一度は知覧を訪れてください。この本で疲れた時は、創元推理文庫のフロスト警部シリーズがおすすめ。時代物では池波正太郎が楽しく、藤沢周平は清冽である。



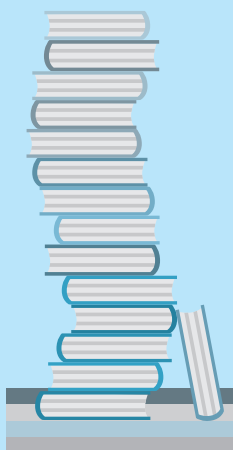
耳鼻咽喉科学講座

清水 猛史 先生

フラニーとズーイ／J・D・サリンジャー

933
7
Sal

魂が震えるほど感動する本に出会うことは人生の中でも数えるほどしかないが、サリンジャーの屈折した自意識、ドストエフスキーの苦悩、モーパッサンの人間愛、漱石の感受性など、その内容の普遍性が今も人々の心をとらえて離さない。若い時に「カラマゾフの兄弟」「女の一生」をはじめとする長編小説の良さや、「彼岸過迄」以降の秀逸な作品群に親しんでほしい。



演出家の仕事／栗山民也

IS
R2
1105

それでも人生にイエスと言う／V・E・フランクフル

146
8
Fra(B)

基礎看護学講座
(基礎)

本田 可奈子 先生

一冊は脚本家の栗山民也さんの本で、先輩から紹介をされて読んでみました。とくに1章の『「聞く」力』に、「音と音の隙間から何を聞き取るのか」とあります。「聞く力」は看護にも重要な技術であり、ここでは人の話（音）を聞くことについて脚本家としての感性で光を与えてくれます。

もう一冊はかれこれ15年前に読んだ本で、実存分析の創始者Franklの「夜と霧」に続く本です。時を経て読み直してもまさに今の自分の胸にうつものがありました。看護は人の健康な生活を支える仕事であり、学問をする領域です。基本に人の価値観を大切にすることがあります。これらの図書はこれから看護を目指す人、または今看護職に就いている方にも今の自分に何か語りかけてくれるものと思います。



国際交流支援室
(文学講義担当)

助川 晃自 先生

指輪物語／J・R・R・トールキン

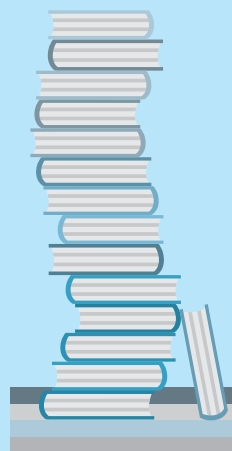
933
Tol

ファンタジーの超古典。ぼくは20代になってからこの本を読み、物語の大きさに引き込まれた。岩の冷たさ、風の音、闇の気配といった細部もまざまざと肌身にせまる。読み終わるのをこれほど残念に思ったことは後にも先にもない。『ホビットの冒険』から読むことをお勧めします。

宇宙船とカヌー／ケネス・ブラウワー

289
3
Bro

巨大な宇宙船を作ろうとした理論物理学者の父親と、巨大なカヌーを作ろうとしたエコロジストの息子。そんな親子を主人公にした二重の伝記。父親フリーマン・ダイソンは三千年のスパンで未来を見すえ、息子ジョージは地上30メートルの樹上に暮らし、カナダ西岸の海をカヌーで進む。読むと世界が広がります。



苦海浄土：わが水俣病／石牟礼道子

916
Ish

湖のように閉じた不知火海に、チッソの工場からメチル水銀が流された。水俣病の公式確認から60年。この病いは人体の問題というだけでなく、人間や社会の問題として立ち現れた。「チッソの病いを替って病んでやっているので、患者たちはそんな風に言った。…お前たちが病まんけん、俺たちが病むとぞ」。池澤夏樹がいうように、この場合、チッソはそのまま日本におきかえられる。20世紀文学の一大傑作。読むなら、まずは、講談社文庫版がお勧めです。

にんげんだもの／相田みつを

728
21
Aid

失敗したとき、落ち込んだとき、悩んだときなどに読むと、立ち直るきっかけになるかもしれません。

他人が失敗したとき、嫌いになりそうなとき、怒りなくなったときなどに読むと、こころが少し落ち着くかもしれません。

書家でもある相田みつをの何とも言えない字も、こころに残ると思います。



泌尿器科学講座

河内 明宏 先生

ご協力いただいた先生方、ありがとうございました！

JCHO
滋賀病院だより
News from JCHO
Shiga Hospital



JCHO 滋賀病院消化器内科に おける学生教育の特色



独立行政法人 地域医療機能推進機構（JCHO）滋賀病院 消化器内科 部長

山本 和雄

（滋賀医科大学医学部医学科9期生・平成元年卒）

JCHO 滋賀病院は、2016年4月より、滋賀医科大学第5学年の学生教育（臨床実習）を担当しております。本稿では、消化器内科を中心にJCHO 滋賀病院での臨床実習の現況を紹介いたします。現在、JCHO 滋賀病院消化器内科は、医師7名体制で診療を行っております。消化器内科診療の中核をなす内視鏡室では、内視鏡が3台稼働しており、年間約6800件の内視鏡検査を行っております。地域の高齢者、透析、健診に関連した消化器疾患の多いことが、当院消化器内科の特徴です。

当院では、学生の教育、医師の総合診療能力の向上、救急患者の効率的な割り振りなどを目的とし、毎朝、カンファレンスを行っております。カンファレンスは、朝8時20分より30分程度で、ほぼ全科の医師が出席の上、前日の予定入院及び緊急入院症例を中心に、症例検討を行います。内科系疾患では、呼吸器科、循環器科、神経内科、腎臓内科、消化器内科、それぞれの専門医が、血液生化学検査、画像検査の見方を解説する形を取っています。特に、高齢者の場合、複数の合併症を有する患者がしばしば見られ、それぞれの専門医が同時にコメントして問題解決を行うことが可能であることが、このカンファレンスの特徴です。消化器内科の症例では、市中病院の消化器系でしばしば遭遇する一般的な疾患、即ち、胆石症、イレウス、食中毒、ノロウイルス感染症、虫垂炎などが中心となりますが、診療の手順を学生が理解しやすいように、また、他の診療科の先生が日常診療で役立つよう、基本的な事項を中心に解説するように心がけています。また、相互にミニレクチャーを行い、救急、総合診療的な知識を深めるようにしています。

午前中の実習は、5名の学生を1診療科1名で担当します。消化器内科では、火曜日と木曜日に1名がローテーションする形となっています。消化器内科の午前の実習は、内視鏡室での胃内視鏡の見学が中心となります。当院では健診患者が多く、平均で1日13件の内視鏡検査を行っております。一般の検査を合わせると1日25件程度の胃内視鏡検査を行っておりますが、そ



んな多忙な中で、医師、看護師、臨床工学技士を中心とした、市中病院内視鏡室でのチーム医療の現状を見学し、理解していただくことを目標としています。更に、超音波内視鏡、拡大内視鏡など最新の検査手技も見学していただき、消化器内科疾患に興味を持ち、理解を深めていただくよう努めています。

午後は、大腸内視鏡を中心とした内視鏡室の見学となります。当院の大腸内視鏡は、1日約6件ですが、大部分の症例で鎮静を行い、苦痛の少ない内視鏡を心がけております。この鎮静下の内視鏡を安全に行うためには、内視鏡室でのチーム医療が重要で、学生には、内視鏡の手技だけでなく、スタッフの動きも含めて見学していただいています。更に、ERCP（内視鏡的逆行性膵胆管造影）、ESD（内視鏡的粘膜下層剥離術）等の内視鏡的治療に関しても、時間の許す範囲で見学していただいています。特に当院は、結石センターを開設し、総胆管結石の内視鏡的治療には力をいれており、先進的な結石の内視鏡治療を見学していただいています。

大学病院とは違いスタッフのマンパワーは劣るものの、個人指導体制で、指導医と学生が対話する形で消化器疾患を中心とした教育を進めています。また、複数の診療科が毎朝集まり、多科にまたがる複数の疾患を抱えた患者の症例検討が毎日出来る体制が構築されていることも当院の特色です。以上、JCHO 滋賀病院の消化器内科を中心とした学生教育（臨床実習）の現状と特色を紹介させていただきました。

JCHO 滋賀病院における学生実習の現状 ～ Win-Win の関係を目指して～

独立行政法人 地域医療機能推進機構 (JCHO) 滋賀病院 泌尿器科 部長

牛田 博

(滋賀医科大学医学部医学科15期生・平成7年卒)

新年度が始まり早1か月が経ちました。5月の連休も春らしい天候に恵まれ本当に心地よい季節です。

当院での滋賀医科大学の第5学年および第6学年の臨床実習が始まって1年が経ちました。当院での学生実習の現状を私なりの目線で講評してみたいと思います。

①病院全体への効果

まずは病院全体が若返った気がします。若い学生が病院内で活動されることで、新鮮な空気が漂います。さらに病院全体で“学生に見られている”といういい意味での緊張感が生まれています(家の中に他人を招き入れる感覚ですね)。

②中堅～ベテラン医師への効果

今までは医業に専念していた訳ですが、そこに“教育”という部分が変わりました。時に毎日の医療行為はルーティンワークになってしまいがちです。学生実習が始まったことで日々の医療行為を学生に見てもらい、説明をすることが必要になります(ずばり“手抜き”ができなくなります)。結果的に改めて日々の臨床行為を見直すことに繋がります。また、自分たちが他の病院より優っている点をアピールできます(今までは“自己満足”に終わっていましたが)。

③若手医師への効果

泌尿器科では学生実習の主たる担当を若手の城先生に任せています。若手の医師はともすると教えてもらう立場になります。そこに学生実習の担当を任せることで後輩を指導する立場になります。学生たちに“城先生、凄—い”と思われるとうれしいものです(点滴を入れたりするような医師なれば当然のことでも感心されます!)。また、学生側も若手の医師が頼もしく仕事をしているのを見て自分もそうありたいと思ってもらえるのでは?と思っています。

④学生への効果

大学から離れ一般病院で実習してもらうことで、より実臨床の現場の空気を感じてもらえると思います。大学病院はある意味特殊です(大学の先生方には失礼ですが)。当院は地域に密着した医療をどれだけ提供

できるかを求められる病院です。必ずしも患者さんは最先端の医療、高度な医療だけを求めているではありません。身近な疾患を含めた広い範囲の病気を診てもらうことも必要なのです。そういった部分も実習で感じて頂ければと思います。

一方で“学生の皆さんも見られている”ことを意識して下さい。われわれ医師以外の看護師をはじめとしたコメディカルの方々にも見られています。はっきりと言いますが、学生の社会人としてのマナーが不足しています。当たり前の挨拶や実習の見学態度などが不十分です。医療はチーム医療です。医師は周りから信頼、尊敬される存在にならないとより良い医療は提供できません。単なる医療知識の暗記だけでは使い物にならないのです。社会人としての予行演習が始まっていると思って下さい。

上記のように学生実習が始まって1年間の現状を講評させて頂きました。せっかくの臨床実習が学生の皆さんにとっても、それを受け入れる当院にとってもプラスにならないければ時間と手間の無駄になります。サブタイトルにも書きました“Win-Win”の関係になるべくお互い日々研鑽していきましょう!



インフォメーション

Information

平成28年度 卒業式

告 辞

学 長 塩田浩平

本日ここに、ご来賓各位並びに本学教職員のご臨席を賜り、平成28年度滋賀医科大学卒業式を挙げてまいりましたことは、本学にとって大きな喜びであります。

医学科119名、看護学科71名の皆さん、本日のご卒業おめでとうございます。滋賀医科大学を代表してお祝い申し上げます。また、これまで永きにわたって学生諸君の生活と勉学を支えてこられましたご家族の皆様方にも、心よりお慶びを申し上げます。

卒業生の皆さんは、本日学士を得て本学を卒業されるわけですが、この日を迎えるに至ったのは、皆さん自身のたゆまぬ努力によるものであるのは勿論ですが、同時にこれまで皆さんを育て支えてくださったご家族の方々、そして指導してくれた先輩や先生方、あるいは共に励んできた多くの友人達のおかげでもあります。そのことにもう一度思いを致し、感謝していただきたいと思います。

皆さんは医師、看護師、保健師、助産師などの国家資格を得て、これから臨床の第一線で働くこととなります。皆さんが従事する医療の仕事は、病気を治療して病者を救命しあるいはその苦しみを和らげ、また人々の健康を維持増進するという、大変重要でやりがいのある仕事です。最初のうちは研修などのハードな生活が待っていますが、皆さんがこれまで大学で学んできた知識と技術の上に、それぞれの場においてこれからもたゆまぬ研鑽を続け、優れた医療人として活躍されることを期待しています。そのために、滋賀医科大学は将来にわたって皆さんを支援し続けますので、母校である本学、そして同窓会である「湖医会」との絆をぜひ大切にしてください。

思い返しますと、医学科の皆さんの多くが本学へ入学された直前の2011年3月11日に未曾有の東日本大震災が起こり、地震と津波によって1万8千人以上の死者・行方不明者が出ました。そして、2554人の方が

未だに行方不明のままであり、地震・津波災害と福島原発の事故が、6年たった今も多くの人々を苦しめ続けています。また、昨年4月には、熊本地震が起こり、九州地方で多くの方が被災されました。皆さんの中には、これらの震災のあと、現地に赴いてボランティア活動に参加した方もあるでしょうし、また募金などで支援した人も多いと思います。こうした災害の他にも、近年起こっている気候変動や生態系の変化などが、我々の生活にも様々な影を落としています。こうした自然災害を経験すると、我々が生きているこの環境が思いのほか脆弱で、我々の生活や生命がいつ危険に曝されるかわからないという危惧を持たざるを得ません。

しかし、我々を脅かす危機は、こうした自然災害ばかりではありません。世界では局地的な紛争や戦争があとを絶たず、毎日のように多くの犠牲者と、その何倍もの難民が生まれています。20世紀終わりに東西冷戦が終結し、世界が平和に向かうかと思ったのも束の間、いま世界は新たな混乱の時期を迎えているように見えます。宗教対立や民族紛争、大国の自国第一主義の台頭など、国際秩序に不安定要因が増しています。時代は今、安定から大きな変動または混沌へと大きく変わりつつあるように思われます。

わが国の社会を見てみますと、急速な高齢化が進展し、疾病構造も大きく変化しています。それに伴って、医療や看護が病気の人を治すだけではなく、健康寿命を延ばし生命の質（QOL）を高めることも重要な役割として期待されるようになってきました。その中で、医師や看護師、保健師などの仕事も多様化し重要性を増してくると思われます。

医学の進歩に伴って新しい診断技術や外科治療、優れた薬物療法などが開発され、以前は治らなかつた病気が完治する例も増え、また、癌などが完治しないまでも病気を持ちながら日常生活を送っている人が増えています。そうした時代には、医療者は単に病気そのものを治す（cure）だけではなく、患者さんが高いQOLをもって生きることができるようサポートすること（care）が求められます。特に、高齢者の場合は、

病気が完治しない場合でも、ケアによって残りの人生を豊かにすることが可能です。生活環境もものの考え方も一人一人異なる患者さんに向き合い、その気持ちをくみとって最善の治療やケアを提供することこそ、滋賀医科大学が目ざす「全人的医療」であります。

皆さんは医学・看護学を勉強する中で、William Osler (1849-1919) の名前を聞いたことがあると思います。Osler 博士は、米国の Johns Hopkins 大学の内科初代教授を務めた医師で、優れた研究者・臨床家であると同時に、近代的な医学教育の基礎を築いた人物です。Osler 博士は20世紀の初めに「医学の中にヒューマニズムを取り戻し、人間を全人的に見る」という「全人的医療」の考えを提唱し、今でも世界中の医療関係者の多くから信奉されています。Osler 博士は「医学ほど教養が大切な職業はない。臨床医学ほど教養を必要とするものはない」と述べ、医療に従事する人間は枕元に本を置き、就寝前、または朝起きたときに本を読む習慣を身につけることを奨めました。皆さんのこれからの生活は、これまでの学生生活とは比較にならないほど忙しく、また緊張を強いられるものとなります。しかしその中で、医療人としての目標を見失わず、また自ら健全な心身の状態を保って医療の仕事に当たるためにも、医学・看護学などの専門の勉強に加えて、古典や歴史など幅広い書物もひもとき、人格と教養を高める努力を続けていただきたいと思います。

最後に、皆さんに是非申し上げたいことがあります。昨今、ごく一部の医師、医学研究者、医学生などによる非常識な行為が、相手の人を傷つけ、また社会的にも強く非難されるという事件が起こっていることを、誠に残念に思います。大多数の医学生、医師などが日夜勉強に励み、患者さんのために献身的に診療に当たっている中で、一部の不心得な人間の行いによって医学界全体が不信感を持ってみられるという状況は慚愧に堪えません。医療は人の生死を扱う職業であり、医師などには大きな権限が与えられていますが、その反面大きな責任と高い倫理観が求められます。

皆さんは医学部へ入ってまもなく「ヒポクラテスの誓い」を学びました。本学のキャンパスには、開学以来先輩達が育ててきた「ヒポクラテスの木」がそびえています。言うまでもなく、ヒポクラテスは紀元前のギリシャの医師で、当時の科学に基づいて医学の基礎を築くと同時に、医師が心得るべき職業倫理を記した「ヒポクラテスの誓い」が、今日でも医療倫理の基本になっています。この「ヒポクラテスの誓い」の精神を現代的に書き直したのが、1948年の世界医師会(WMA)総会で採択された「ジュネーブ宣言」であ

ります。その中には次のように述べられています。「医師として、生涯を人類への奉仕の為にささげる、良心と尊厳をもって医療を実践する、患者の健康を最優先のこととする、そして力の及ぶ限り医師という職業の名誉と高潔な伝統を守り続けることを誓う」。ここでは医師について言われていますが、これらは医療に携わるすべての職業人が心得るべき重要な精神であります。皆さんは、自らが医学・看護学を志したときの初心をもう一度思い起こし、患者さんや社会から真に尊敬される医師、看護師、保健師、助産師などになってください。

本日巣立たれるすべての皆さんが健康で充実した生活を送り、幸福な人生を過ごされることを心より祈念して、御卒業に当たってはなむけの言葉といたします。本日は誠にありがとうございます。

平成29年3月10日



平成28年度 医学部 卒業式

平成29年3月10日（金）午前10時から本学体育館において挙行され、医学科学生119名、看護学科学生71名が卒業しました。

式典では学位記の授与、学生表彰が行われ、卒業生はそれぞれの思いを胸に抱き、旅立っていきました。

医 学 科 卒 業 生



医学科卒業生 119名

看 護 学 科 卒 業 生



看護学科卒業生 71名

平成28年度 大学院 学位授与式

平成29年3月10日（金）午後3時から管理棟3階の大会議室において挙行され、博士課程20名、論文博士3名、修士課程9名に学位記が授与されました。

学位授与者



平成28年度 各賞授与式

3月10日(金)の学位授与式に引き続いて挙行政され、平成28年度に学位記(博士・修士)を授与された者の中から特に優秀な学位論文を発表した2名に、学長賞として塩田学長から表彰状と副賞が手渡されました。

また、滋賀医科大学シンポジウム各賞・優秀研究者賞・ベストティーチャー賞・女性研究者賞・Doctor of the Year, 2016の各賞の受賞者に、表彰状と副賞が手渡されました。



学長賞

優れた学位論文に対して表彰

博士課程 岩崎 成 仁
修士課程 高崎 邦 子

第33回滋賀医科大学シンポジウム各賞

第33回滋賀医科大学シンポジウムにて決定

若鮎賞 清 水 昭 男

奨励賞 山 本 孝

審査員特別賞 澤 井 俊 宏
吉 田 尚 平
大 塚 武 人
狭 川 浩 規

松 井 展
村 田 幸一郎
平 大 樹
諸 橋 啓 太

杉 本 裕 子
越 沼 伸 也
水 谷 真由美

優秀研究者賞

研究面で特に顕著な功績があった研究者に対して表彰

医療安全管理部 伊 藤 英 樹

ベストティーチャー賞

学部教育に顕著な成果をあげた教員に対して表彰

生理学講座(細胞機能生理学) 松 浦 博
呼吸器内科 長 尾 大 志

基礎看護学講座(基礎) 本 田 可奈子
医療文化学講座(文化人類学) 兼 重 努

女性研究者賞

女性研究者の優秀な研究活動に対して表彰

アジア疫学研究センター 大 野 聖 子

Doctor of the Year, 2016

患者さん等から高い評価を得た研修医に対して表彰

医師臨床教育センター 神 谷 梓

医師・保健師・助産師・看護師 国家試験の結果

各試験の合格発表が平成29年3月に行われ、本学学生の結果は次のとおりでした。

第111回 医師国家試験

平成29年2月11日(土)・12日(日)・13日(月)実施

	受験者	合格者	合格率	備考
新卒者	119名	102名	85.7%	合格率(全国) 88.7%
既卒者	9名	7名	77.8%	
計	128名	109名	85.2%	

参考 前回 第110回 医師国家試験の結果

	受験者	合格者	合格率	備考
新卒者	114名	107名	93.9%	合格率(全国) 91.5%
既卒者	9名	7名	77.8%	
計	123名	114名	92.7%	

第103回 保健師国家試験

平成29年2月17日(金)実施

	受験者	合格者	合格率	備考
新卒者	30名	29名	96.7%	合格率(全国) 90.8%
既卒者	0名	0名	—	
計	30名	29名	96.7%	

参考 前回 第102回 保健師国家試験

	受験者	合格者	合格率	備考
新卒者	30名	30名	100.0%	合格率(全国) 89.8%
既卒者	0名	0名	—	
計	30名	30名	100.0%	

第100回 助産師国家試験

平成29年2月16日(木)実施

	受験者	合格者	合格率	備考
新卒者	9名	9名	100.0%	合格率(全国) 93.0%
既卒者	0名	0名	—	
計	9名	9名	100.0%	

参考 前回 第99回 助産師国家試験

	受験者	合格者	合格率	備考
新卒者	7名	7名	100.0%	合格率(全国) 99.8%
既卒者	0名	0名	—	
計	7名	7名	100.0%	

第106回 看護師国家試験

平成29年2月19日(日)実施

	受験者	合格者	合格率	備考
新卒者	60名	57名	95.0%	合格率(全国) 88.5%
既卒者	1名	0名	—	
計	61名	57名	93.4%	

参考 前回 第105回 看護師国家試験

	受験者	合格者	合格率	備考
新卒者	57名	57名	100.0%	合格率(全国) 89.4%
既卒者	0名	0名	—	
計	57名	57名	100.0%	

研究医コースのご案内

研究は案外身近で、おもしろい

ちょっとでも興味があれば、入門研究医コースに参加してみよう！

入門研究医コースは、基礎医学研究がどのようなものか情報を提供し、研究への興味を育てようとするもので、基本的に入入り自由です。

第1学年で「基礎医学研究入門」を履修すると、自動的に入門研究医になりますし、講義を選択しなくてもコースに入れます。第1学年前期に数回行われるラボツアーに参加すれば、研究室の雰囲気がわかりますし、第1学年後期の必修授業（医学特論・医学・生命科学入門）では、講座で行われている詳細な研究内容を知ることができます。



複数の研究室をローテートすることも可能で、研究室の様々な活動に参加しながら、研究の基盤となる知識の習得や、研究の動向の理解に重点を置いた指導を受けられます。

本格的に取り組むなら、登録研究医コースへ！

自分のやりたいことが定まってきたら、登録研究医にステップアップしましょう。第1～5学年のいずれの時点でも登録可能で、年に数回面接による資格確認が行われます。

興味のある研究領域に応じて分子医科学・病理学・法医学・公衆衛生学の各専攻を選択し、自分の研究テーマをもって実際に研究活動に参加することになります。アドバイザーとして指名された基礎医学講座やセンターなどの教授・准教授と、本事業専任の特任助教とが、研究テーマの選び方から、実際の実験手技まで一から相談に乗ります。それぞれの講座のスタッフによる実験指導も受けられますので、効率的に研究を進めることができます。希望に応じて、複数の講座をローテートしたり、連携大学である浜松医科大学や三重大学に出向いて、幅広い研究手法を身につけることも可能です。



登録研究医コースの期間は、学会や研究会への参加経費の補助も受けることができます。また、大学院の講義の一部を聴講することができ、大学院進学後には取得単位として認定されます。

詳しくは、研究医養成コースのホームページへ (<http://www.shiga-med.ac.jp/kenkyui/>)

勢多は勢田、世多、瀬田とも書かれるが、古代、中世の文献では、勢多が多用されている。それに勢多は「勢（いきおい）が多い」という佳字名称である。従って、いきおいが多かれと願う本学関係者の想いにぴったりということで、瀬田とせずに、あえて勢多とした。

（題字は、故 脇坂行一初代学長による）

2017年6月

理念

滋賀医科大学は、地域の特徴を生かしつつ、特色ある医学・看護学の教育・研究により、信頼される医療人を育成すること、さらに、世界に情報を発信する研究者を養成することにより、人類の健康、医療、福祉の向上と発展に貢献する。

目的と使命

[滋賀医科大学]

滋賀医科大学は、地域の特徴を生かしつつ、特色ある教育・研究により、信頼される医療人の育成及び世界に情報を発信する研究者を養成することを目的とし、もって人類の健康、医療、福祉の向上と発展に貢献することを使命とする。

（国立大学法人滋賀医科大学 学則第1条を一部修正）

[滋賀医科大学大学院]

大学院は、医学及び看護学の領域において、優れた研究者及び高度な知識と技術をもつ専門家を養成することを目的とし、もって、医学及び看護学の進歩と社会福祉の向上に寄与することを使命とする。

（国立大学法人滋賀医科大学 大学院学則第2条より抜粋）

教育理念

豊かな教養と高い専門的知識及び技能を授けるとともに、確固たる倫理観を備え、科学的探究心を有する医療人及び研究者を養成する。

教育目標

- 1) 課題探求、問題解決型学習を通して、適切な判断力と考察する能力を養う。
- 2) 豊かな教養を身につけ、医療人としての高い倫理観を養う。
- 3) コミュニケーション能力を持ち、チーム医療を実践する協調性を培う。
- 4) 参加型臨床（地）実習を通して、基本的な臨床能力を習得する。
- 5) 国際交流に参加しうる幅広い視野と能力を身につける。





滋賀医科大学
SHIGA UNIVERSITY OF MEDICAL SCIENCE

学章の説明

「さざ波の滋賀」のさざ波と「一隅を照らす」光の波動とを組み合わせたもの。

「中心に向かって、外からさざ波の波動-これは人々の医への期待である。外に向かって中心から一隅を照らす光の波動-これは人々の期待に返す答えである。」